とんど焼き

１月 14 日にとんど焼きを行いました。「いちょうの森こども園に来た『年神様』が、とんどの煙を頼りにお空へ帰るんだよ」と話をし、のぼる煙を見上げて、みんなで「また来年きてください」と手を振りました。

煙を頭に浴びたり、燃えた後のすすを顔に塗って、一年の健康を願ったりしました。これで、いちょうの森こども園のみんな、今年一年元気に過ごせそうです。

最後は小さな獅子に頭を噛んでもらいました。

2月

５日　誕生会
１０日　避難訓練
２４日　新入園児説明会

3月

３日　卒園旅行
５日　誕生会
９日　避難訓練
12 日　健脚活動
24 日　卒園式
　　１号修了式
２９日～３１日　自由登園

冬野菜

11 月の初めに玉葱の苗を、12 月の中旬にほうれん草の種をこどもたちと一緒に植えました。

玉葱の苗を植えるときに、ほし組の子が「ねぎ植えるん？もうこれでたべれるんじゃないん？もっと大きくしたいん？」と尋ねてきました。青ネギに見えたのでしょうね。玉葱が出来ることを伝えると、少し驚いていました。

ほうれん草は大きくなり次第、玉葱は来年度暖かくなったら、それぞれに収穫し、給食室で調理する予定にしています。収穫も食べるのも今から楽しみです。

いちょうの森だより

いちょうの森こども園　園だより　No,４１

令和３年度２月１日　発行
いちょうの森こども園　園だより
桜が丘東３－３－４９６
TEL　086（956）2022
FAX　086（956）2023

いちょうの森こども園ＨＰには、ＱＲコードまたは
下記のＨＰアドレスよりアクセスできます。
https://ichounomori.okayamakodomokyoukai.jp/

あいさつの向こう側

朝の検診の場面です。「おはようございます」の言葉と共に、新型コロナウィルス感染拡大以前は握手をしていたのですが、今は残念なことに言葉だけのやりとりになっています。だからこそ、やりとりを大切にしたい思いでいます。

視線を合わせて、挨拶を交わし、「元気ですか？」の問いかけに「はい」と答える。決して儀式にならないよう、気持ちを通わせることができるように気をつけて行っています。

でも、「はずかしい」「言いたくない」などその日のこどもの気持ちは様々です。また、それが続くこともあります。緊張や気持ちが向かないことがあっても、ある程度大きくなると、「ちゃんとしようよ」と言葉によって気持ちを修正することが可能になってきます。幼いとなかなか大変なことも多いかと思います。それは、まだある意味あそびの延長だからとも言えるからです。ですが、この時期が大切な時とも言えます。まず、大人がして見せること。強要せずとにかく、して見せ続けることです。して欲しいと願うことは、まず手本からです。時期が来ると自分から「したい」と思うようになるでしょう。その時に「名前は？」とか、誘い水を向けるといいかもしれません。子育てはひとつの山を越えると、また次の山がやってきます。それは、バージョンアップしながら、親である限り続くものなのです。

大切にしたいことは、こどもが「しよう」と自分で思えるようになることです。そして、自分で「した。できた。」と納得することです。

私たち大人が気をつけることは、伝えたいことがこどもに伝わっているかを確認しながら過ごすことではないでしょうか。その答えは、こどもの行動や言葉にあると思います。こどもの心のささやきをキャッチできる大人でありたいと思います。

原谷　雅彦

冬の思い出の１ページ

そらぐみ

なわとびに毎日取り組んでいます。最初の目標は前跳び 20 回でしたが、友だちと競い合いながら、目標を達成した子もいます。初めは「かぞえて」と担任に頼んでいましたが、最近は「かぞえようか？」と、こども同士で声を掛け合う姿も見られます。

「つぎは、うしろとび」「まえとび 100 回！」と次の目標を立てて日々、努力しているので、外は寒いですが、身体はぽかぽか。できるようになると心もぽかぽかするようです。

にじぐみ

ビニール袋で一人ひとつずつ凧を作って、外に出て飛ばしました。風が冷たく、寒い日だったのですが凧を飛ばすために、こどもたちは園庭をぐるぐる走り回って元気いっぱいです。紐の、どのあたりを持てば高く飛ぶのか？どうすれば地面につかないように飛ばせるか？ということを、何度も繰り返す中で習得していました。

ゆきぐみ

そら組からもらった氷で遊びました。初めは、あまり遊んだことのないもので、警戒していたのですが、中に入っている葉っぱなどに魅力を感じ、手を伸ばしてみると、葉っぱに直接触れない！と発見。「たい！（冷たい）」「（葉っぱの触れず）あれ～？」とつぶやきながら、氷あそびに夢中になっていたゆき組です。

風が冷たく、寒い日には一人ひとつカップを準備して、氷作りに挑戦しました。カップに水を入れて、毛糸を垂らし、園庭の日陰に一晩おいておきます。外に出るたびに様子が気になり、氷の状態を確かめに見に行ったり、「明日、こども園来たらもうできとんかな～？」「早く明日になって氷、見に行きたいな～」と友だち同士で話したりして、氷ができるのを楽しみにしています。次の日、こどもたちと氷の様子を見に行くと、見事に完成した氷を発見。期待通りの氷ができ、大満足でした。

寒い日が続くと「今日も氷作りたい！」とこどもたちからリクエスト。この冬何度も氷づくりを試したほし組です。

はなぐみ

雪が降った日、外には行けないので部屋に取ってきて雪あそびをしました。雪の塊にこどもたちも固まっていましたが、カップやスプーンを出すと遊び始めました。高月齢の子たちは、小さくつぶしたり、カップを雪に押し付けて型抜きをしたり、片づけるまで夢中で遊んでいました。こどもたちは興味があることに対してはこんなに長い時間集中して遊べるのだなと驚いたほどでした。

つきぐみ

寒い日には『おしくらまんじゅう』で身体を温めました。「おしくらまんじゅう　おされてなくな♪」のうたのように尻もちをついてもみんなで大笑い。それに気づいた周りの子も「何してるの？やりたい」と近づいてきます。「あつくなってきた～」「つかれちゃうよ～」と言いながらも友だちと一緒にお尻とお尻で押し合うことが嬉しいようでした。

まずは身体を温めて…さぁ次は何して遊ぼうかな？

人権キャラバン

「発言する権利」

今月の人権キャラバンでは、どの人にも気持ちがあり、その気持ちを発言をする権利がある、ということについてみんなで考えました。（意見表明権）

職員がする劇で、A さんは「何して遊ぶ？わたしはおままごとしたい。おままごとでいいよね？じゃあ、あなたはこどもね」と相手の意見など聞かず決めてしまいます。B さんは何か言いたそうでしたが、なかなか言えません。「こういうときはどうしたらいいだろう？」と聞き、そらぐみのロールプレイを行うと『自分の気持ちだけ言うのではなく、友だちの言葉も聞けるように、待ってあげる』という意見がありました。

気持ちを言葉にするのが苦手な子もいます。でも、時間をかければ自分の思いを伝えられるかもしれません。このキャラバンが、だんだん自分で考える時間になってきました。これからも一方的ではない「会話」ができるよう、大人も気をつけ、こどもたちにも投げかけていきたいと思います。